SANDY LIANG

NY発「SANDY LIANG」が日本初のポップアップを渋谷PARCOにて開催
2026年11月20日(金)～11月29日(日)

・Rizzoli社出版ブランドブック Dressing Up: Sandy Liang を限定販売
・ポップアップ限定アイテムやノベルティをラインナップ



ニューヨーク発のファッションブランド「**SANDY LIANG（サンディ・リアン）**」は、**2026年11月20日（金）～ 11月29日（日）**の期間、**渋谷PARCO 1F ポップアップスペース「ARCADE」**にて日本初となるポップアップを開催いたします。

2014年にニューヨークで設立された「SANDY LIANG」は、デザイナー Sandy Liangの幼少期の記憶や、ニューヨークの街で行き交う人々、日常の風景からインスピレーションを得た、遊び心とウィットに富んだコレクションを展開するブランドです。90年代のノスタルジックなシルエットやカラーリングをベースに、フェミニンな要素とユーモラスなディテールを巧みにミックスした独自のデザインが特徴です。また、ローカルなコミュニティに根ざし、家族や友人の名前を各アイテムに冠するなど、彼女のパーソナルな日常や感情的な記憶をユニークな視点で表現しながら、常に革新を続けています。





SANDY LIANG

日本初となる本ポップアップでは、**Rizzoli**から出版されるブランドブック「**Dressing Up: Sandy Liang**」を限定販売いたします。本ブックを購入いただいた方には、**本ポップアップ限定の「Canvas Tote」とデザイナー直筆サイン入りステッカー**をプレゼントいたします。また、**ポップアップ限定の「Dressing Up: Sandy Liang」ロゴ入りフーディー**を販売するほか、55,000円（税込）以上お買い上げのお客さまには、ブランドロゴ入りの「**Errand Tote**」をノベルティとしてプレゼントいたします。さらに、2026秋冬コレクションからアメリカ国内限定アイテムも特別に取り揃えております。

SANDY LIANG 渋谷PARCO ポップアップストア

会期：2026年11月20日（金）- 11月29日（日）11:00-21:00
場所：渋谷PARCO 1F ポップアップスペース 「ARCADE」
〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷PARCO 1F



Dressing Up: Sandy Liang
¥14,300 (tax in)



ブック購入者限定ノベルティ
「Canvas Tote」



「Dressing Up: Sandy Liang」
フーディー *ポップアップ限定
¥29,700 (tax in)
COLOR: WHITE
SIZE: OS



ノベルティ「Errand Tote」
※税込55,000円以上お買い上げ対象

SANDY LIANG

画像ダウンロードリンク：
https://drive.google.com/drive/folders/1kZwazMzlCtfR1G0KfYNWENAFKPS-F05R?usp=drive_link

【SANDY LIANG】
Sandy Liangは、ニューヨーク生まれニューヨーク育ちのデザイナー。
コレクションのエネルギーとインスピレーションの源は、幼少期の記憶が持つ引力や、彼女の名もなき地元の人々の姿やスピリットにあります。レストランの裏口でエプロン姿のまま煙草を吸うシェフ、ワイドレッグのプリントパンツでキャナル・ストリートを歩く祖母たち―そうした何気ない日常の情景が、彼女の創作の源となっています。
クイーンズ区ベイサイドで育ち、当初は建築を学ぶためにロードアイランド・スクール・オブ・デザインに短期間在籍したのち、パーソンズ美術大学に編入しファッションデザインを専攻しました。卒業と同時に自身のブランドを設立し、当時から直感的に思い描いていた世界観を形にしています。
デザイナーとしての彼女のルーツは、確固としてアウターウェアにあります。構造、素材感、そしてアイデンティティへの探求は、ファーストコレクション以来、一貫して彼女の作品に息づいています。洗練されたディテールと上質な素材（レザー、シアリング、ミンクなど）を通して、リアンは冬の校庭でコートに包まれていた安らぎの記憶、90年代に幼い頃の彼女がニューヨークの街で目にしたブランドから受けたシルエットやカラーの印象、そして幻想的で遊び心のあるウィットに富んだ感性を表現しています。
それぞれのコレクションは過去のシーズンから積み重ねられ、若いブランドとしては稀有な思慮深さと一貫性を備えています。シャツやニットを軸にレディ・トゥ・ウェアの展開を広げながら、レイヤリングを意識した品質や素材へのこだわりは揺るぎないものです。リアンは、自身を突き動かす感情的な記憶の中で革新を続ける、極めて自伝的なデザイナーです。
リアンの制作プロセスは、ローカルに根ざしています。今も父が働くレストランから、2ブロック先にある、かつては倉庫であったスタジオを改装した空間で、少人数のチームと密に制作を行っています。アイテムには家族や友人の名前を冠し、ライターが隠されたフルーツ柄のように、ニューヨークのリアルな日常をユーモラスに映し出しています。
彼女がデザインする「記憶」には独自のラグジュアリー、持続性、そしてウィットが宿っており、目で見て楽しめる、触れて豊かでありながら、どこか親しみやすい存在なのです。